

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

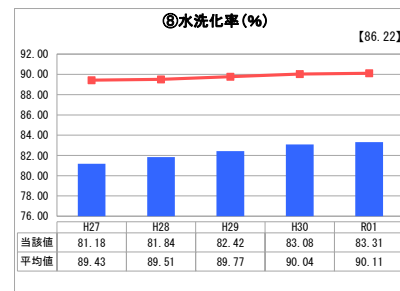
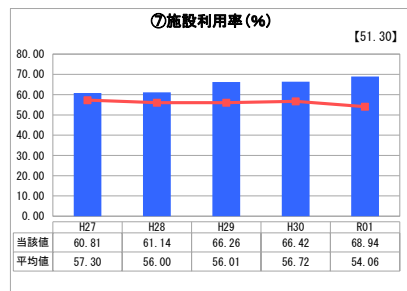
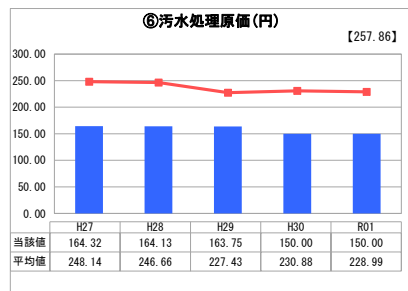
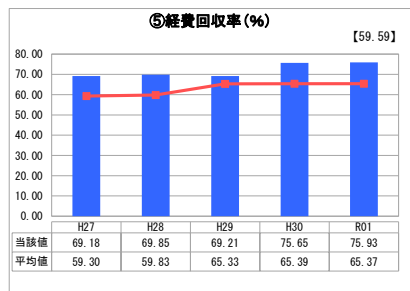
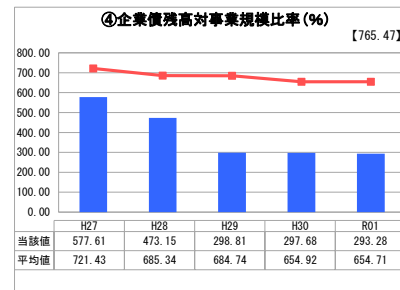
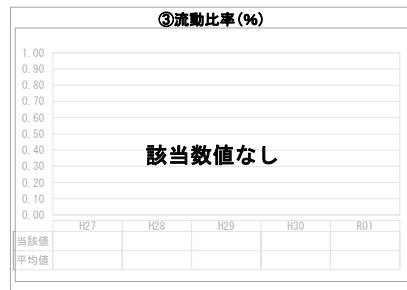
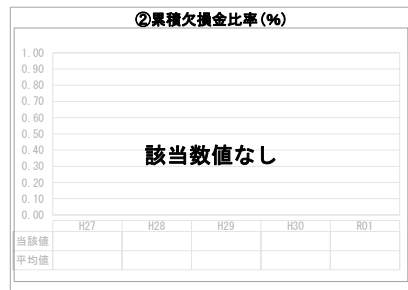
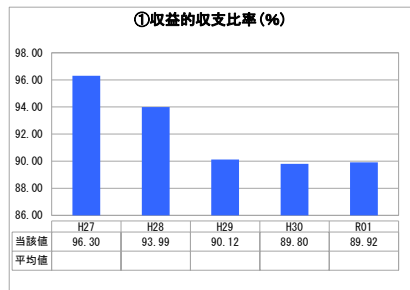
群馬県 前橋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.55	74.28	2,156

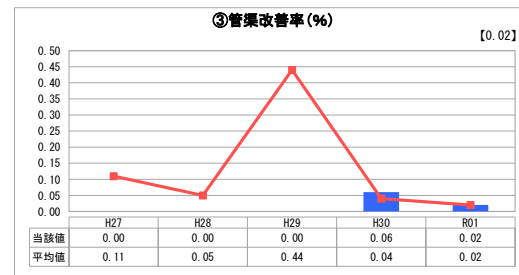
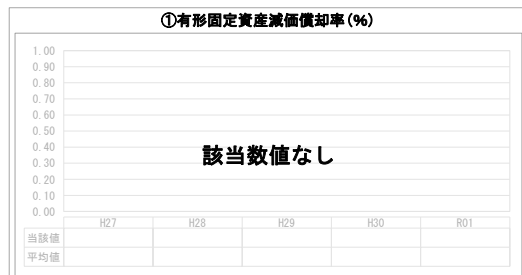
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
336,115	311.59	1,078.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,661	15.10	1,898.08

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を割っている状態が続いている。収入からみると、使用料収入は微増傾向にあるものの、料金体系を公共下水道使用料と同じに設定しているために、小さな処理施設を多く抱える農業集落排水事業のコストを使用料等、収入だけではまかなえないのが現状である。

一方、支出に関しては、汚水処理原価は維持管理経費を抑えているものの、施設の老朽化もあり、これ以上のコストダウンは難しい状況となっている。企業価値高対事業規模比率は、現状、平均値よりも低いが、今後は処理施設の老朽化に対応するため、更新工事を計画的に実施していく必要があることから、比率の悪化が懸念される。

### 2. 老朽化の状況について

前橋市の農業集落排水事業は昭和54年に最初の施設が供用開始となり、その後も処理区域を拡大させ、さらに市町村合併により施設数が増えたことから、現在、処理施設は19施設に及び、供用開始後40年以上経過した施設が1施設、30年以上経過した施設が4施設、20年以上経過した施設が8施設、10年以上経過した施設が6施設あり、機械電気設備の更新は急務となっている。

今後、平成29年に策定した最適化構想等を反映させ、適切な時期に維持・改修工事を行いたい。

### 全体総括

経費の削減により経費回収率はやや改善傾向を示しているものの、使用料が汚水処理費をまかなえる料金設定となっていないこと、今後、老朽化した施設の改修費が増えることから、従来の未接続者だけでなく、新たな受益者を取り込むなど、更に使用料を増やす努力を必要とする。

コストの削減については、公共下水道や流域下水道への接続、処理施設の統合の検討や老朽化した管渠の更生を始めており、将来的には、施設の数を半減するように検討を進めている。

また、令和2年度に経営戦略の策定、令和6年4月1日までに地方公営企業会計の適用を予定しており、経営状況を適切に反映した投資・財政計画の策定を進めている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。